

日刊県民福井 掲載記事 平成26年 1月30日

# 多様職種 協力し防止

院内感染とは、病院の中で人から人、または医療器具などを介して、患者さんが入院後四十八時間以上経過してから、元の疾患とは別の感染症にかかることをいいます。また、医療従事者が病院内で何らかの感染症に罹患することもあります。

院内感染を起こす病原性微生物には、さまざまなウイルス、細菌、カビ、ダニをはじめとする昆虫などがあり、特に代表的な細菌がMRSAと呼ばれるメチリン耐性黄色ブドウ球菌です。

もし院内感染が起こった場合、特に新生児や高齢者など抵抗力の弱い患者さんにとっては、生命を脅かす重大な問題になりかねません。近年は患者さんの高齢化や使用薬剤の多様化で、院内感染のリスクが高まっています。安全な医療を提供するため、医療機関には院内感染をできるだけ起こさないような対策が必要です。

県立病院感染制御チームリーダー

野坂 和彦

## いきいきライフ

### 院内感染対策の取り組み



ICTチームのカンファレンスの様子  
＝福井市四ツ井2丁目の県立病院で

病院にはさまざまな感染症を持った患者さんが入院してきます。他の患者さんや面会に来られた方、職員による連携の場を設け、定期的な情報交換をしながら、ICTの役割です。感染症に罹患している患者さんを把握し、入院されている病棟で感染症の治療や感染防止対策が適切に行われているかを確認・指導します。

さらには、職員が感染を受けやすいよう、また院内感染の「運び屋」にならないよう、ワクチンの接種や、感染から身を守るための防護具（マスク、手袋、ガウン等）の着脱訓練などの院内研修会を開いています。患者さんはいろいろな病院を受診するので、感染対策は一つの病院内だけで行うことが大切です。職員には手洗いの徹底を指導していただきます。皆さんも病院に来られたときは、備え付けの消毒液を指にすり込み、感染の予防に努めていただければと思います。

す。  
県立病院では、感染制御チーム（インフェクション・コントロール・チーム）を組織して、院内感染対策に取り組んでいます。当院のICTは、専門の医師と看護師を中心に検査技師、薬剤師、事務職など多様な職種で構成されています。チームが協力してICTに取り組んでい、それぞれの専門的な知識を活用して、感染防止の策は一つ一つの病院内で行っても十分ではありません。

## 各病院連携 情報交換も

地域（医療圏）ごとに連携を図り、感染症についての情報を共有し、地域が一丸となって適切な感染予防策を講じることが重要です。

健康